

忍者市を知る



— 忍者でもてなす春 —

▶市内をパレードする忍者行列の様子



伊賀市の春の風物詩となった「伊賀上野 NINJA フェスタ」が今年も4月7日(土)から始まります。町には色とりどりの忍者たちが溢れることでしょう。今回はこの「伊賀上野 NINJA フェスタ」の歴史をたどってみましょう。

伊賀市では、戦後間もない頃から「忍者」に着目し、観光の柱として前面に打ち出してきました。昭和27(1952)年に開催された「世界子ども博覧会」では、パビリオンの1つに「忍術館」があり、人気を博しました。また、昭和38(1963)年には「忍術まつり」を開催し、忍術音頭おどりで市内をパレードしました。これが現在の「伊賀上野 NINJA フェスタ」のルーツであり、途中途絶えた時期もありましたが、「忍者行列」をメインイベントとした「忍まつり」として昭和54(1979)年に復活し、16年間開催しました。

平成7(1995)年には名称を「伊賀上野 NINJA フェスタ」と改め、「忍ジャズダンスコンクール」

を中心としたイベントとして平成12(2000)年まで開催されました。

その後、中心市街地を舞台とした、より地域密着型のイベントとなり、市民による忍者のまちづくりが始まり、現在へと引き継がれています。

近年、日本の各地で忍者に関する類似のイベントが開催されるようになってきました。しかし、伊賀市のように地域住民やボランティア、企業、学生、各種団体など、あらゆる主体が関わる地域ぐるみ・市民主導での取り組みは他にはありません。これこそが伊賀市が他の地域と一線を画す「忍者市」である理由です。先人たちのおもてなしの精神が今に受け継がれているのです。

この春もたくさんの人に素敵な笑顔になっていただけるよう、それぞれの立場からみんなで「伊賀上野 NINJA フェスタ」を盛り上げていきましょう。

【問い合わせ】

観光戦略課 ☎ 22-9670 FAX 22-9695



▲供養塔①

市指定文化財(史跡)
松寿院供養塔(長田)
2基の供養塔からなり、長田の常住寺境内とその裏山に所在します。松寿院は藤堂藩初代藩主の藤堂高虎の側室であり、二代藩主藤堂高次の母にあたる人物です。慶安元(1648)年9月2日に84歳で逝去し、その13回忌(供養塔①)、23回忌(供養塔②)に、高次によって建立されたものと考えられています。供養塔①は、塔の上に笠がある形式です。大きさが総高215cmあり、笠高30cm、笠幅78.5cm、塔身高さ168cm、幅60cm、厚さ30cmで塔の材質は花崗岩です。常住寺閻魔堂(県指定有形文化財)の西側に所在するこの塔は、閻魔堂を再建した万治3(1660)年、高次が亡き母のために、常住寺で13回忌の追善供養を行った際に建立されたもので、石塔の銘文には閻魔堂の東向かいに位置すると刻まれており、この時の位置を保っているもの



▲供養塔②

とみられます。供養塔②は、将棋の駒のような形で、大きさが総高314cm、下幅90cm、厚さ45.5cm、材質は花崗岩です。常住寺の西側裏山に所在し、塔の正面には松寿院の*諡が印刻されています。この塔は17世紀中頃に建立され、寛文9(1669)年、記録には高次が常住寺へ領地九石二斗三升を寄進したとあり、松寿院の23回忌に建立されたと考えられます。供養塔のある常住寺の西側丘陵(長田山)は、閻魔堂や自らの遺言で長田山に葬られたといわれる三代藩主藤堂高久墓所(三重県指定史跡)があり、藤堂家にとってこの地が特別な地であったことがわかります。松寿院供養塔は歴史的な価値やその立地環境も含め、平成29年3月28日に史跡として伊賀市指定文化財に指定されました。*諡：人の死後に、その徳をたたえて贈る称号

文化財課
☎ 47・1285 FAX 47・1290